

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570706671		
法人名	特定非営利活動法人 エヌピーオー社会福祉事業振興会		
事業所名	グループホームすずらん湯沢		
所在地	秋田県湯沢市元清水二丁目5番20号		
自己評価作成日	令和6年1月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和6年2月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・昔なじみの食材や料理が提供できる。 ・利用者と職員の関係性が良い。 ・それぞれの認知症を理解し、合わせた支援によってできることを継続できる工夫をしている。 ・好きなことや得意なことを行うことで、積極性やADLの維持につなげている。 ・職員の働き方について、各家庭の事情や持病などを考慮した形をとり、職員同士の理解や協力を得て、離職につながらないよう努めている。長く関わることで、利用者家族にも安心してもらえたり、相談を受けたりと信頼関係を築いている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>コロナの影響が長びき、地域の行事に参加できない等、積極的な交流は控えています。そんな状況の中でも、近所の方が感染に気遣いながら野菜を差し入れてくださったりして馴染みの関係が築かれています。毎日昼の時間帯にミーティングを行って情報を共有し、利用者にとって居心地の良い場所となるよう、職員と一緒に生活する家族となり、充実した生活の継続に努めています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な面談やミーティングにて、理念に基づいた実践の意識付けをしている	前年度の業務を振り返って実践に繋がっているか確認し、年度目標を見直しています。職員と管理者の定期的な面談の中でも、理念の意識づけが図られています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	季節の野菜をいただいたり、町内の防災訓練のお誘いや、施設避難訓練の参加など協力いただいている	コロナウイルス感染対策から地域のイベントには参加できませんでしたが、近所の方からは状況を気遣いながらも野菜を差し入れていただき、訪問美容も引き続き地域の方をお願いしています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	避難訓練を利用者さんと地域の方と一緒にすることで、現在入居中の方の認知症の特徴を理解してもらう機会にしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	第三者の意見、率直な意見をいただけることで、自分たちでは気づけなかった方法など見出せることもある	定期的に開催しています。ホームの取り組みを報告して意見をいただき、サービスに活かせるよう努めています。出された意見はミーティングで職員に報告しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年間通じて確認や相談はもちろん、会議での事業所の取り組み、現状報告にて意見をもらっている	研修の案内がある他、窓口に向いて顔の見える関係づくりがされています。生活保護受給者が入居していた際には福祉事務所と協力して利用者支援に繋げていました。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	センサー使用について、毎日のミーティング時にカンファレンスを行い、身体拘束の必要性を確認しながら、継続している。認知症による周辺症状によっては、一時的な施錠も頭に置きながら対応している	言葉遣いや身体状況のチェック等、身体拘束、虐待のないケアを意識し、職員間でその思いを共有しています。センサー使用については行動を制限することにならないよう、毎日ミーティングする中で状況を確認しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料やミーティング等で、制度や事例に触れ、理解に努めている		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約時に十分な時間をとって対応している。一方的な説明にならないよう、利用者、家族の不安に思っていることなど会話の中で引き出し、理解を得よう努めている		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	支払い来所時に近況報告と共に、相談や要望など意見が言えるような会話を心がけている。	ホーム便りや毎月の報告書に利用者の写真を添付して利用者の様子を家族に理解していただけるよう努めています。支払いに訪れた時等に意見の引き出しに努めています。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	定期的な個人面談の際や、ミーティングの中で意見や提案を集めている	毎日ミーティングを行っている他、個人面談も行って職員が意見を言える環境をつくっています。代表が職員の意見、提案に速やかに応え、業務や環境の改善に繋げています。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム管理者ネットワークがあり、コロナ時期から直接交流は控えているが、グループLINEなど活用し相談や情報交換など行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期の情報だけではわからない不安や要望、本人が表に出せない部分を探り寄り添うことを心掛けている。ゆっくりした時間をあえて作り、心の声に耳を傾ける		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階やアセスメントで分かりえない不安や困りごとについて、引き続き傾聴するよう努めている。電話や来所時など、話しやすいよう時間に余裕がある雰囲気心をかけている		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活上難儀だと思われる部分をお手伝いしながら、自分のペースで過ごしていただいている。本人の得意分野については、知恵や力を借りるなどし、一方的な支援にならない関係づくりに努めている		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との交流については途切れないよう制限を設けず(感染予防は継続の上)、施設でも家族の話にふれ、忘れないよう会話している。家族への報告書には、近況だけでなく質問や相談も行い、互いの立場から本人にとっての良い環境づくりに努めている		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	身元引受人以外の家族や親類へ、年賀状作成や電話での会話支援をしている。コロナ時期はリモート面会も実現し、遠方の家族にはこれからも利用してもらう予定にしている	利用者と家族の繋がりが保てるよう、報告書と一緒に写真を送付して普段の様子を伝えたり、家族が受診に同行してくれることもあります。訪問美容の方とは10年来の馴染みの関係になっています。	
17		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順については、相性を考慮し、その時々で言い分が変わる利用者に合わせて、職員がさりげなく間に入るなどし、関係性が継続できるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の今後に不安を抱えたままにならないよう、サービス終了後、もしくは新しいサービスが始まった後も引き続き情報提供や、相談を受けるよう努めている		
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努、これが困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に好きなもの嫌いなものの把握を、1対1で聴ける機会を設けている。また、普段の様子や、ふとした言葉を拾い本心を探っている	自分の気持ちを伝えることが難しい利用者が多いため、日頃の会話から思いを汲み取るようにしています。連絡ノートに記入して共有し、毎日行うミーティングでも話し合っています。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの情報だけでなく、居室の家具配置や寝具の使用枚数など、四季を通じて家族へ確認し、環境が変わりすぎないように努めている		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	時間ごとの申し送り(1日4回)や、ミーティングの時間で情報共有。職員同士伝えやすい環境作りにも努め、細やかな個別介護を目標にしている	全職員でモニタリングを行い、カンファレンスで話し合って現状に即した介護計画に繋げています。本人、家族の意向も反映させています。	
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	随時記録に残し、その場にいなかった交替の職員も必ず目をとおして早い情報収集が出来るよう、日誌にも重ねて簡潔に記録。読むだけでなく、申し送りではニュアンスまで伝わるよう心がけている		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	積極的な外出はまだできていない中でも、なじみのお店や昔好きだった食品など、スタッフだけではなく家族様の協力も得ながら、つながりをなくさず買い物している		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医へ継続でそれぞれ受診している。時間外や緊急時以外は電話で相談など、早めに判断を仰ぐようにしている	利用者個々のかかりつけ医で受診しており、毎月の報告書で家族に受診状況を伝えています。歯科受診が必要な時は訪問診療が可能であり、薬局とも良好に協力関係を築いています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内看護師はおらず、訪問看護も今のところ利用はない。受診時は、医師だけでなく看護師のアドバイスも仰いでいる		
26		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	退院支援看護師と連携し、退院に向けて必要な働きかけを継続するよう努めている		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の気持ちを、段階を踏んでいくにつれて都度確認し、思いを大切にしながら、状況をこまめに伝えることで心の準備を図っている。気持ちに寄り添った支援を心がけている	看取りには対応していないことを説明しており、家族の希望を踏まえ、利用者の状態に応じて次の支援に繋げています。	
28		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応について研修を行い、ヒヤリハットや事故報告書から対策の検討、防止、振り返りを行い、その後の対応につなげている		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設避難訓練に、地域の中への参加協力を得て、一緒に行っている。反省会を行い、職員側目線だけでなく、協力者側の目線からも意見を仰ぎ、マニュアルに反映させている	夜間を想定した訓練が行われています。スムーズな避難に活かすことができるよう、訓練後に出された協力者の意見をマニュアルに取り入れています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人が気持ちよく過ごせるよう、心構えや言葉かけに留意している。自分だけで思い込まずに、職員同士で対応について確認し合うなど、振り返りも大切にしている	職員同士で会話する際には利用者の気持ちに配慮すると共に、入浴及び排泄介助の際の声かけの仕方には十分に気を付けています。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	興味を示さなくとも、会話の中で好きな色や素材など聞き出し、朝の身支度や、TPOに合わせた装いができるよう支援している		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おしぼりや食器の準備から、野菜を切ったり盛り付けなど一緒に行い、自分がかかわった食事を皆が喜んでくれるなど、食べるだけではない喜びも配慮している	普段の会話やテレビの情報から利用者の嗜好を献立に取り入れています。畑で収穫した野菜や山菜料理を提供してこれまでの習慣を継続することで懐かしいと思っていただけるよう努力しています。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重測定での変化や体調に考慮し、勤めたり減らしたり、バランスよく摂っていたけるよう心がけている		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で行ってもらう前提ではあるが、さりげない状態把握を行い、適切なケアができるよう努めている		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつ記録の記入と確認を利用し、排せつパターンを探りながら、羞恥心に配慮した対応を心がけている	チェック表を活用し、その人のパターンに応じて支援しています。利用者の状態に応じて介護用品の使用状況について職員間で協議し、家族にも報告しています。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排せつリズムの把握、体操、毎日ヨーグルト摂取など、まずは薬に頼らない自然な排せつへの試みをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	体調のリズムやこだわり、要望に合わせて入浴予定を入れている。予定はあくまで予定とし、当日の本人の気持ちに合わせて変更可能、気持ちよかったという実感を残せるよう努めている	週2回の入浴を基本に支援しています。ゆっくりにできる時間帯に会話しながら足浴を行っており、利用者の思いを感じ取ることができる大切な時間と捉えています。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の明るさ調整、寝具の調整を個々に行い、夜間の睡眠の質を把握している。昼寝が長引かないようお声掛けし、リズムが整うよう支援している		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態変化による薬の変更や、下剤の追加などは申し送りを速やかに行い、記録による周知や状態観察に努めている		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の得意なこと、好きなことを把握し、機会を作り自然と発揮できるよう支援している		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ時期から不特定な戸外活動は控えているが、利用者が「天気が良い」と実感し散歩の意向がある際は速やかに実現できるよう配慮している。その時の思いが沈まないうちに実現できるよう努めている	畑の水やりや散歩に出かけ、少しでも戸外に出られるよう支援しています。また、受診の帰りに車窓ドライブを楽しむこともあります。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様理解のもと、自分で財布を管理している方もおり、所持していることで安心感が得られるよう、自己管理を支援している		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレでは即効性のある消臭スプレーを使い、臭いがこもらないように配慮。共有スペースには、季節に応じた装飾をし、利用者自身が飾り付けするなど話題作りに向けている	ホールにソファが並び、テレビを観たり、新聞を読んだり、自由に寛げる空間となっています。既存の建物を職員、利用者の使い勝手が良いように環境整備を行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人で過ごす時間があったり、気の合う方と過ごせたり、あえてスタッフ同士の会話に招き入れたり、その場その場で臨機応変な対応で心地よく過ごしてもらえる工夫をしている。		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新規入居の際、なるべく自宅で使用していたものをそのまま使用していただき、馴染みやすさを心がけている。勝手に掃除したり、移動したりせず、変わらない安心感に努めている。家族からの贈り物や、写真などは目に入るところに飾り、話題にしている	これまでの生活が継続できるよう、家族が環境を整えている居室がある他、利用者の心身の状況に合わせて居室づくりがされています。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	鉢植えの水やりの管理や、日めくりの管理など個々に役割をもって担当している。家事についてはできるだけ自分のものを管理し、出来ない部分だけお手伝いすることで、自立されている実感につなげている		